

「伊豆中南部地域半島振興計画（案）」に係る県民意見への対応表

No.	ページ	項目	意見	意見に対する県の考え方
1	24	第2 振興計画 6 医療・福祉の充実 (1) 医療の確保等	<p>本地域には3次救急医療機関がなく、医師の高齢化や専門医不足が課題とされている。計画案にある「無医地区等への巡回診療」をさらに発展させ、以下の取組の記載を提案する。</p> <p>①医療 MaaS 車両の導入</p> <p>医師が同乗せずとも、看護師が乗車し、医師が遠隔から診察を行う「オンライン診療搭載型モビリティ（医療 MaaS）」の導入を明記すること。これにより、医師の移動時間を削減し、へき地や無医地区の患者に対し効率的に専門的な医療を提供することが可能になる。</p>	<p>①医療 MaaS 車両の導入</p> <p>へき地医療において、医療 MaaS を活用した事業を実施している自治体があることは承知しております。</p> <p>本県においては、オンライン診療など、へき地医療に係る新たな取組に係る全国の好事例について、市町やへき地医療拠点病院等と情報共有を図っているところです。</p> <p>今後、無医地区等への巡回診療を行うへき地医療拠点病院等が医療 MaaS を含め、へき地や無医地区の患者に対し効率的に専門的な医療を提供することが可能となる取組を行う場合には、本計画への位置付けを検討してまいります。</p> <p>へき地医療拠点病院等が①の取組を行う中で、地域の実情により、②のマルチタスク車両の活用にも取り組む場合には、本計画への位置付けを検討してまいります。</p>

No.	ページ	項目	意見	意見に対する県の考え方
			<p>②マルチタスク車両の活用</p> <p>車両を行政コストの負担のみで終わらせないため、日中は移動診療、夕方は買い物支援や住民の送迎など、1台の車両を複数の用途で活用する「マルチタスク車両」の運用モデル構築を推奨する。これにより、車両稼働率の向上と持続可能な運営体制の構築が図れる。</p>	<p>②マルチタスク車両の活用</p> <p>国が地域の多様な交通資源を住民の移動に活用することを後押しする動きがあり、県としても、各地域にある交通資源の活用に関して調査・検討を進めております。</p>

No.	ページ	項目	意見	意見に対する県の考え方
2	17	第2 振興計画 1 交通通信ネットワークの整備 (3) 生活交通の確保	<p>計画案において、バス路線の維持・確保と併せて公共ライドシェアの導入が掲げられているが、運転手不足が深刻化する本地域においては、既存交通の維持だけでなく、デジタル技術を活用した抜本的な効率化が不可欠と考える。ついては、以下の2点の追記・強調を提案する。</p> <p>①人流・車流データによる地域住民の生活圏分析 地域住民がいつ、どこに、何で移動をしているのか、「スマートフォンのGPSデータ」、「車の移動データ」を活用することで、移動傾向の分析が可能。</p> <p>②AI 活用型オンデマンド交通の展開 定時定路線のバス運行が困難な地域や時間帯に対し、住民の移動データを分析し、予約状況に応じて最適ルートを走行する「AI オンデマンド交通」への転換を推進すべき。これにより、限られた車両とドライバー資源で最大限の移動総量を確保することが可能となる。特に、伊豆急行・伊豆箱根鉄道の駅等の交通結節点と、観光拠点・病院を結ぶ二次交通への活用も期待できる。</p>	<p>各地域が抱える課題は様々であり、生活交通を確保するための方策は多くの選択肢があり、公共ライドシェアは有効な方策の一つであると考え、例示としております。このため、本計画においては「地域の実情を踏まえた公共ライドシェアなど新たな運行形態」と記載し、御提案いただいた①及び②も、本文中の「など」に含まれていると御理解ください。</p>